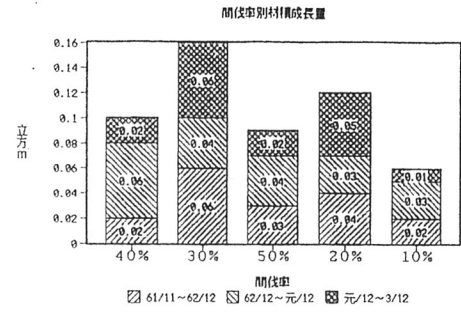


平均樹高の推移 単位m

間伐率	61年10月	61年11月	62年12月	元年12月	3年12月
40%	13	14	14	16	16
30%	12	13	14	15	16
50%	14	15	15	16	16
20%	14	14	15	16	16
10%	14	14	14	15	15

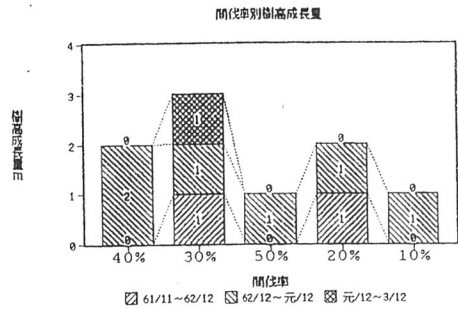
表 2 - 1



平均材積期間成長量 単位m³

間伐率	61/11~62/12	62/12~元/12	元/12~3/12
40%	0.02	0.06	0.02
30%	0.06	0.04	0.06
50%	0.03	0.04	0.02
20%	0.04	0.03	0.05
10%	0.02	0.03	0.01

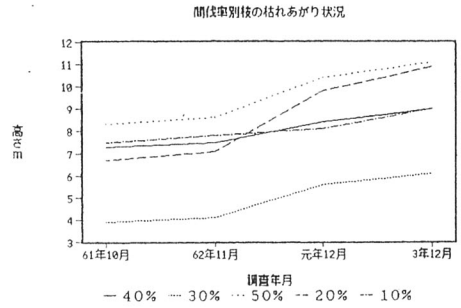
表 3 - 2



平均樹高期間成長量 単位m

間伐率	61/11~62/12	62/12~元/12	元/12~3/12
40%	0	2	0
30%	1	1	1
50%	0	1	0
20%	1	1	0
10%	0	1	0

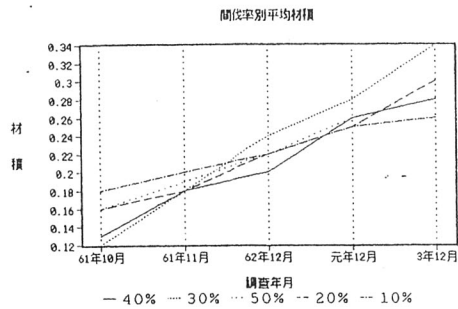
表 2 - 2



枝枯れ上がりの推移 単位m

間伐率	61年10月	62年11月	元年12月	3年12月
40%	7.3	7.5	8.4	9.0
30%	3.9	4.1	5.6	6.1
50%	8.3	8.6	10.4	11.1
20%	6.7	7.1	9.8	10.9
10%	7.5	7.8	8.1	9.0

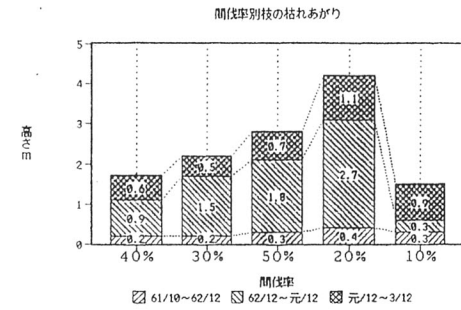
表 4 - 1



平均材積の推移 単位m³

間伐率	61年10月	61年11月	62年12月	元年12月	3年12月
40%	0.13	0.18	0.2	0.26	0.28
30%	0.12	0.18	0.24	0.26	0.34
50%	0.16	0.19	0.22	0.26	0.28
20%	0.16	0.18	0.22	0.25	0.3
10%	0.18	0.2	0.22	0.25	0.26

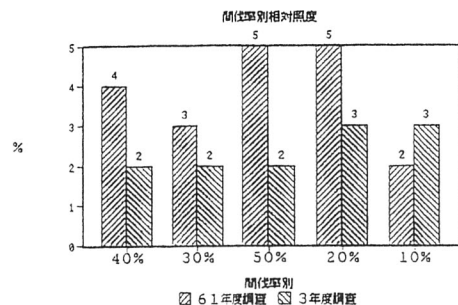
表 3 - 1



調査期間の枝枯れ上がり 単位m

間伐率	61/10~62/12	62/12~元/12	元/12~3/12
40%	0.2	0.9	0.6
30%	0.2	1.5	0.5
50%	0.3	1.8	0.7
20%	0.4	2.7	1.1
10%	0.3	0.3	0.9

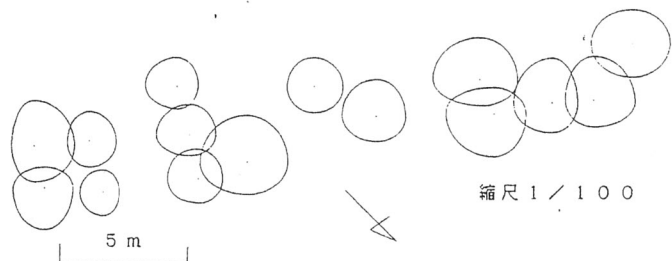
表 4 - 2



伐区毎の総照度 (各伐区10方所)

間伐率	61年調査		3年調査	
	林内	林外	林内	林外
40%	13760	381100	13089	529100
30%	13730	462500	9055	519500
50%	21190	452000	11760	505600
20%	24180	500500	14560	464600
10%	12850	524400	11449	447700

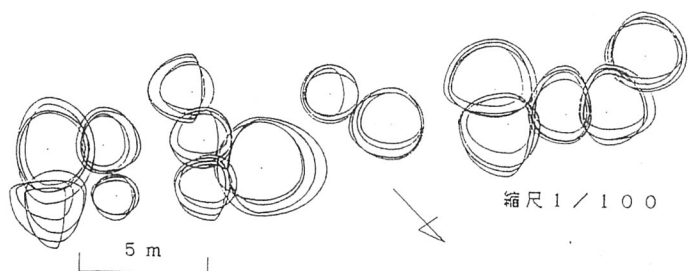
表5



間伐率30%樹冠投影図

5年後 ↓

図2-1



間伐率30%樹冠投影図

図2-2

この調査結果から、次のことがわかります。

(1) 径級について、間伐率30%が良好な成長をしており、次いで、20%、40%、50%、10%の順になっています。

間伐率30%の3年度調査は23.6cm、間伐率10%の3年度調査は21.2cmで、その差2.4cmもあります。(表1-1参照)

調査開始年度から調査最終年度との差(以下、期間総成長量)も同様である。(表1-2参照)

(2) 樹高について、調査最終年度の3年度調査時には、間伐率10%以外は16mになっています。(表2-1参照)

しかし、期間総成長量でみると、間伐率30%が3mも伸びており、間伐率40%と20%が2m、間伐率50%と10%は1mの伸びにとどまっています。(表2-2参照)

そして、全伐区に成長がみられるのは間伐後3年です。

(3) 材積について、材積も平均径級と平均樹高から算出していますので、径級・樹高ともに成長が良かった間伐率30%が、自動的に高い数値を示しています。(表3-1、表3-2参照)

(4) 枝の枯れ上がりについて、林内が暗いと枯れ上がりは高くなると思いますが、調査期間中の枯れ上がりの推移をみると、間伐率20%が4.2mもあがっています。

間伐率50%の枯れ上がり値が高いのは、間伐のときに伐倒木が枝に当たり落としたためと、間伐率30%が極端に低いのは、試験設定時の設定箇所の下枝が多かったためと思われる。(表4-1参照)

また、間伐率10%の枯れ上がりが他の間伐率より悪いのは、地形的に太陽光線が差し込む方向にあり、林内が明るいと思われる。

(表4-2参照)

(5) 相対照度について、試験設定区の地形的による太陽光線の差込み方向等により、満足な結果は得られませんでした。(表5参照)

(6) 樹冠投影図については、全間伐率ともに広がってきていることがわかります。(図2-1、図2-2参照)

(7) 下層植生について、全体的に、イノデ、ベニシダ、イワヘゴ、

ヘツカシダ、イワガネソウのシダ類、アオキ、コアカソウ、ハナイカダ、ムラサキシキブの灌木類、チヂミザサ、フユイチゴ等のスギの指標植生が見られ、

個別的には、

- 1 伐区にカンワラビ
- 2 伐区にクワ
- 3 伐区にイイギリ
- 4 伐区にカナクキノキ
- 5 伐区にヒサカキ が単体で見られました。

特に、設定当時、コアカソウは林縁に多かったが、調査最終年度には間伐率50%の伐区に多く見られました。

6、 考察

この調査は■1次間伐について、間伐率別に調査したのですが、径級・樹高ともに成長が良かった間伐率は30%で、その次が20%でした。よって、今後、我が担当区での1次間伐の間伐率本数で30%程度が良好と思われます。

また、今回は試験設定区の選定に少し問題があったようですが、今後2次間伐までの間どれくらい成長するか、そして、2次間伐実行でどのようになるかは今後の課題です。